

次回の外国語コンテスト日本語部門には、日本人学生のみなさんもぜひ聴衆の一人として聞きにきてください。自分の国について留学生が話すのを聞けば、きっと意外な発見があるでしょう。

(架谷真知子)



外国語コンテスト入賞作



英語部門

第 1 位 Living in the Global Community as Japanese

07C8131 Megumi NONOYAMA

Today we are living in the global society and some people are actively engaging the international community. My aunt, too. She's working as a lawyer in America.

When I was young, I sometimes played with cousins, speaking only English. Because my aunt married to American, my cousins can't speak Japanese. Thus I sometimes couldn't communicate with them. The language barrier was impeding our communication. Such an experience made me aspire to communicate smoothly with people in English.

In my high school, I had an opportunity to study in Australia. In Australia, I almost enjoyed my stay, but I also felt there was still a language barrier. All classes were conducted in English. I couldn't understand what teacher said. Moreover, I was shocked by the fact that I didn't know anything about Japan, though I am Japanese and grew up in Japan. For example, I had a chance to learn memories of World War in Australia. I met a retired soldier and talked with him. He had fought against Japan. He strictly said to me, "During the war, I hated Japan. Japanese troops killed my friends. You aren't wrong, but you have a responsibility for what Japan did." I couldn't reply to him because I was totally ignorant about the war. Finally, he said to me, "Your responsibility is knowing the past, and that will promise us a brilliant future. Good luck to your future." As he said, we have a negative legacy of the World War that many Japanese pretend not to see. But I think we must face this fact. What is needed is a proper understanding of this negative legacy and accepting it. I think these efforts will help us understand who

we are, that is, our national identity. And through such an identity, we can express ourselves to foreign people, I think.

Thus, during my stay in Australia, I found that not only an acquisition of foreign languages but also such a national identity is essential for living in the global community. Then, I have strongly desired to be a member of the global community as Japanese.

Now I am majoring in modern Chinese studies and also learning English at university. I believe these languages will enable me to communicate with many people.

However, as I learned in Australia, learning languages is not enough to be a world citizen. Then, I want to learn Japanese and world history as well as foreign languages. I want to introduce Japan to foreign people anytime and anywhere and I want foreign people to know a genuine Japan. And I hope such an approach will be a stepping stone to engage the global community. To be a world citizen, I want to study hard and broaden my knowledge about the world in the years to come. Thank you.

中国語部門

第1位 中国火车上的感受

06C8084 盛田美帆

我喜欢火车。小时候，常常跟爸爸盯着看飞驰而过的火车，我想将来能在火车上干活儿就好了。第一次坐火车的时候，看着车窗外的风景不断变化，别提心里多高兴了。

今年在天津留学期间，我利用黄金周去了趟黄山。这是我第一次坐中国的火车。我期待着车窗外不断变化的风景，趴在车窗上看啊，看啊，我失望了。因为中国幅员辽阔，走了一程又一程，看到的只是大片的田地、散落着的民房，偶尔有行人、有羊群，但并没有什么大的变化。

车窗外跟日本不同，车厢内跟日本更不一样。

坐在一块儿的，就像都是老朋友一样，大家有说有笑，没有一个人觉得陌生。可我对自己的汉语没有信心，一直没有做声。干坐着多没意思，干脆爬上中铺钻了被窝儿。就是那天晚上，我下来的时候，不小心摔到下铺睡的大姐身上了。我一个劲儿地道歉，看得出把她砸得够呛，可她连声说：“没事儿，没事儿。”第二天我又向她道了歉。她笑着说：“我早忘了！”她让我坐在她的旁边儿，和我聊了起来。我一边儿吃着她给我的点心，一边儿吃力地用汉语回答。不一会儿，周围的人都过来了，大家一起聊天儿，完全是一家人的气氛。这种气氛，这种人与人的交流带来的温暖，是在日本感受不到的。

我去中国以前，听说中国人只对自家人热情。其实，并不是这样。连我这个外国人都体会到了他们对我是那么热情，那么关怀，那么温暖。反之，我们日本怎样呢？坐火车的，或者看书、或者听音乐、或者睡觉，哪有谁主动跟人搭腔呢？我觉得在日本由于手机和电子邮件的普及，追求人和人直接交流的越来越少了。

我第一次坐中国的火车，就感受到了在日本感受不到的东西，感受到了难以忘怀的温暖。我真想把我的感受告诉谁。我想应该先告诉小时候跟我一起看火车的爸爸。

虽然小时候我们父女俩很好，可从上初中起我们关系恶化了，连话都没的可说。爸爸很顽固，我也坚决反抗。所以留学期间我只是给妈妈打了几回电话，没给爸爸打过电话。但是这时我想起了爸爸，爸爸也喜欢火车，他肯定能理解我现在的心情。

我给爸爸拨通了电话。起初说得还有点儿生硬，但是越谈越轻松，越谈越热乎。让我感到意外的是爸爸非常熟悉中国，我问他怎么这么熟悉，他说因为每周都看中国火车的节目。我们忘了这是国际电话，谈了好好久。好像俩人之间从来没有过什么隔阂似的。我们中国火车之旅竟然把我们父女的关系彻底调整过来了。

现在我每周都和爸爸一起看那个节目，我们俩有一个共同的梦想：一起坐上中国的火车，去扩大和中国人的交流，并且把这种交流永远地持续下去。

韓国・朝鮮語部門

第1位 축구의 매력 (サッカーの魅力)

05M3178 趙 顯樹

안녕하십니까? 저는 경영학부 경영학과 3 학년 조현수입니다. 잘 부탁드립니다.

오늘 저는 축구에 대해서 이야기 하고자 합니다. 축구는 제가 생각하기에 여러가지 운동 경기중에서 제일 재미있고 아름다운 경기라고 생각합니다. 그 이유는 축구는 처음만난 사람이라도 축구공을 함께 차는 것 만으로도 곧 그 사람이 어떤 사람인가를 알 수 있고, 사이도 좋아질 수 있는 신기한 함을 가지고 있기 때문입니다.

또한 축구는 하는것도 재미있지만 보는것도 재미있는 경기입니다. 유명한 선수의 높은 기술을 보는것도 좋고, 자기가 좋아하는 팀을 응원하는 것도 좋다고 생각합니다. 그러나 축구를 보는데 있어서 제일 재미나는 대화는 물론 월드컵입니다.

월드컵은 세계 각국의 대표가 4 년에 한번 각 지역에서 진행되는 예선을 돌파해서 한 곳에 모여서 시합을 하는 대회인데, 그때는 모두가 자기나라 팀이 우승을 하기를 바라며 열심히 응원합니다.

2002 년에 일본과 한국이 공동으로 월드컵 개최를 한 것을 여러분도 알고 있다고 생각합니다. 그때 일본대표를 응원하는 일본 국민들의 모습을 기억하고 계십니까? 지금까지 자기나라를 위해서 모두가 단결하는 것은 별로 없었다고 생각합니다. 한국에서도 모두가 열심히 응원해서, 결과 4 위라는 최고의 성적을 얻을 수 있었습니다.

이와같이 축구는 모두가 하나가 될 수 있는 아름다운 경기라고 생각합니다.

日本語部門

第1位 おばあちゃんの知恵

07C8205 王宜潔

皆さんこんにちは！

皆さんは日本に来て、どのぐらいになりましたか。日本で生活している間に誰かがいいアドバイスをしてくれたり、人生に役に立つ格言が見つかったりしましたか。私は去年留学試験を受ける前に、諦めたいという気持ちが出てきて、先生に相談したとき、先生が「佐賀のがばいばあちゃん」という本を紹介してくれました。「がばい」とは佐賀弁で「すごい」という意味で、この本の作者が九州の佐賀で祖母と暮らした子どもの頃の8年間を書いた自伝小説です。

では、皆さん、まず私が言うとおりにイメージしてください。勉強が苦手な子どもがいます。ある日、その子がおばあちゃんに成績表を見せると、得意の体育が5という満点以外は1と2ばかりでした。その子が「ばあちゃん、僕、1と2ばかりでごめんね」と謝ったら、もし皆さんなら何と言うのでしょうか。驚いたことに、がばいばあちゃん是这样言い返しました。

ばあちゃん「大丈夫、大丈夫。足したら、5になる。」

島田さん「でも、成績表って足してもいいの？」

ばあちゃん「いいよ。人生は総合力だよ！頭がいい人も、頭が悪い人も、金持ちも貧乏も、50年経てば、50歳になるよ。」

皆さん、がばいばあちゃんの言葉は、シンプルで力強く、素敵だけでなく面白いユーモアにも溢れていると思いませんか。

さて、今、深刻な社会問題になっている自殺についてがばいばあちゃんは何と言っているのでしょうか。

「世の中には、病気で死にたくない人がいっぱいおるのに、自殺なんて、贅沢だ。」

皆さん、ばあちゃんの言葉は、時代が移り変わっても、やはり、心に響くものだと思いますか。

ところで、人生には、苦しいときも、悲しいときもあります。そんなとき、物質的なものではな

く、皆さんの心の奥では、こころの支えになってくれる、もっと違ったものを求めているのではないのでしょうか。そんなものが、この本の中にあるかもしれません。

私は勉強や、バイトや、生活などで悩むことがよくありますが、そんな時がばいばあちゃんの言葉を思い出すと、前向きという信念が強くなってきて、頑張れば、できそうにないこともできるようになると思います。

最後に、がばいばあちゃん是这样いしました。「時計が左に回ったら、壊れたと思って捨てられる。人間も昔を振り返らず、前へ前へと進め！」みなさん、私たちはこれからの人生には、何があっても逃げずに、強い心、負けない心、勇気を持って自分らしく堂々と輝いていっていきましょう。みなさん、是非一度この本を読んでください。

編集後記

『語研ニュース』第19号をお届けします。今回は史上最高の頁数を誇る大部の『語研ニュース』となりました。この場を借りて執筆者各位に感謝の意を表します。今回はカラー写真も多かったのですが、予算内で出来上がるかどうか心配だったのですが、お陰様で無事完成しました。中部日本教育文化会の向井さんに大変お世話になりました。

今回も奇数号の恒例通り、前年末に行われた外国語コンテストの講評と、上位入賞者のスピーチ原稿を掲載しています。御覧の通り、どれも優れた内容のものであり、またそれぞれの外国語も注目すべき水準だと言えます。しかも、現代中国学部学生の中国語以外は、外国語や外国文化を専攻していない学生諸君が、これほどの水準のスピーチを外国語で聞かせてくれるということは実は大変なことです。このスピーチコンテストのこと、特にここに参加している学生たちのことは、学内や学外に大いに宣伝して誇りにすべきことだと私は思います。入試広報などにも最大限に利用してもらえればと考えています。今年ももちろん、11月から12月にかけて、各語系で昨年と同様なコンテストが開催されます。出来るだけ多くの学生の参加を期待しています。

これまでも何度かここに書いてきたことを、敢えてもう一度繰り返して書きます。夏休みのほぼ一ヶ月半の間、外国語から遠ざかって生活をしていると、これまでせっかく身につけた語学力が衰えてとても勿体ないことになってしまいます。春学期中の授業のテキストを暇なときに読み返したり、その外国語の新聞を読んだり、あるいは自分の趣味や興味のある分野に関する本を読んだり、ニュースや天気予報などをその外国語で聴いたりなどのインプットを、少しずつでもなるべく毎日続けましょう。